

新たに車体の開発部門を 設置して外販を強化 自動車整備は女性を 基軸に作業現場を見直し

ゲスト

石部 久康

SG モーターズ(株)
代表取締役社長



新たな視点で車体開発に取り組む石部久康社長

わが国トラック輸送の最大手である佐川急便を傘下にもつ SG ホールディングス (SGH) グループが使用するトラック車体を一手に手がける SG モーターズ株式会社の社長にこのほど、いすゞ自動車出身の石部久康氏が就任した。石部新社長は昭和 53 年にいすゞ自動車に入社、製造だけでなくディーラーや保険会社経営から商社への出向まで幅広い経験をお持ちで、2 年前に SG モーターズに移籍されている。SG モーターズは車体製作と自動車整備が事業の主な柱となっているが、約 10 数年前にはいすゞ自動車のディーラー権を得て佐川急便へのトラック販売も行っている。最大手ユーザーへのトラック販売から車体製作、整備まで一手に手がける SG モーターズは極めて恵まれた存在であるが、石部新社長は SGH グループ以外への事業拡大(外販)を本格化させようとしている。とくに新たに設置した開発部門は、品質保証も含めトラックメーカーと同様の視点で車体開発に取り組むもので、車体産業の位置づけが大きく変わる可能性を秘めている。少子高齢化で人手不足も年々深刻になっているが、女性労働力の活用を目的にあらゆる現場の見直しにも着手している。石部新社長の熱い思いを伺った。

■年間生産能力約1000台の余力を外販に

□秋林路 本日は社長にご就任されたばかりで、ご多忙のところ有難う御座います。SG モーターズは巨大な物流グループ(SGH)の一員ですが、車体製作と自動車整備事業で独自路線を貫いておられますので注目しております。

■石部 これまでの歴代社長もご紹介頂いて有難う御座います。

□秋林路 いえ、良い勉強をさせて頂いております。石部社長は

永くいすゞ自動車にいらっしゃったと伺っております。

■石部 はい、二年ほど前まではいすゞ自動車に在籍しておりました。

□秋林路 いすゞ自動車ではどのような部門をご担当に?

■石部 昭和 53 年の入社ですが、エンジンの取り扱いから販売会社の社長、保険会社の社長など色々…、商社への出向も経験させて頂きました。SG モーターズがいすゞ自動車のディーラー権を得たのは 10 数年前ですが、その時私はいすゞ自動車側に居たん

です。

□秋林路 そうでしたか。SG モーターズがいすゞ自動車のディーラー権を得たニュースを聞いた時は非常にビックリしました。車体メーカーがトラックメーカーの傘下に入ることは珍しいのですが、SG モーターズは佐川急便を傘下にもつ SGH グループですから、巨大なユーザーがバックに居ます。一般的にはディーラーがユーザーと商談を進める中で車体仕様が決まるので、SG モーターズは非常に有利な立場になります。

■石 部 その通りです。当社は約10年前に車体製作の佐川車体と自動車整備の佐川自動車工業が統合してSGモーターズになりましたが、いすゞ自動車のディーラー権を得たのはその約2年前です。その時、私は「トップランナーの佐川急便さんがトラックのディーラー権を得ることで、様々な展開が可能となりますよ。」と申し上げたのですが、今は逆の立場です。(笑)

□秋林路 どんな構想をお考えなのですか。

■石 部 当社の製造部門は元々佐川急便の車体製作を主な業務として発足していますので、

現在でも全体の75%は佐川急便向けの車体を製作しています。当社の年間生産能力は2トン車に換算して3200～3300台ですが、佐川急便に対しては年間約2000台ですので、1000台強は能力的に余っている状態です。当面はこの余剰能力を佐川急便以外、つまり外販に向けたいと考えています。

□秋林路 2010年、SGモーターズさんは温度管理機能を搭載したボトラカー『FVV』を市場投入されました。その時も外販強化を目的のひとつに上げておられました。

■石 部 『FVV』は非常に優れた商品で、お客様から高い評

価を頂いております。ただ、ボトラカーの市場だけで、1000台強の余剰能力を埋める事は出来ません。

□秋林路 という事は、車体製作で新しい展開をお考えですか。

■石 部 現時点で『FVV』のような具体的な商品がある訳ではないのですが、新たに車体の開発部門を立ち上げます。従来の開発部門は製造に付随した開発ですが、新たに立ち上げる開発部門は、品質保証も踏まえたメーカー本来の組織になります。

□秋林路 「メーカー本来の組織」というところをもう少し詳しく教えてください。

■石 部 トラックは品質保証が伴いますので、開発には相当な人材とコストを投入します。ところが、これまで車体については車体メーカーに依存しているのが実情ですね。しかし、この先ASEANなどグローバル化が進む時には、ちゃんとした品質保証のできる車体製作が求められます。その為にもちゃんとした開発部門が必要なのです。

□秋林路 トラックメーカーの開発はエンジンを始め、駆動系、キャブ、シャシなど細分化されていて、沢山の人材が居ます。しかし、上物については担当者はいても開発スタッフは居ません。

■石 部 これからは上物メーカーも品質保証も含めて、しっかりした開発組織が必要になると思います。

■人を育成し技術を磨くことが企業の成長に

□秋林路 これまで商用車の開発を沢山みてきましたが、多くの場合、トラックディーラーの営業マンがユーザーと商談する際に、新しいニーズが出てくるので、これを車体メーカーに相談する。そこで、車体メーカーは新しい材料や機能を研究して車体を作りあげる。これは受注生産ですよ。本来は車体メーカーが市場を調査をして、ユーザーが要求する車体機能を開発、提供するのが本来の姿ではないかと思います。

■石 部 これは日本独特のやり方なんです。受注生産ですから多種多様なトラックが出来た訳です。

□秋林路 ウイングボデーとか各種定温輸送車とか、荷役機能も含めて日本のトラックはホントに種類が多いのですが、車体メーカーは常に縁の下の力持ち的存在です。

■石 部 車検制度もそうなのですが、これは日本の文化が背景にあって、善し悪しは別にして、独自の自動車産業を形成したことは確かです。ただ、これから先のグローバル化を考えると、少し変わってくるのではないかと思います。

□秋林路 欧米では車体メーカーがシャシを選択していると聞きました。

■石 部 その通りです。トラックで最も大事な荷物を積載する荷台の部分ですから、この車体に適合するシャシを上物メー

カーが選定する形です。

□秋林路 今度、SGモーターズが開発部門を組織して、車体開発に乗り出すと、これまでとは少し変わる事になりますか。

■石 部 俄かには変わらないかも知れませんが、この開発部門が目指す方向はそういう事になります。とくに、当社の場合は、佐川急便というトップランナーのユーザーが控えているので、コストセンターとしての役割もあります。幸い佐川急便もSGモーターズの物づくりには協力的な姿勢を見せてくれていますので、外販に対してもベストパフォーマンスが取れるようにしたいと考えています。

□秋林路 日本のトラックメーカーも既にASEANを睨んだ市場戦略に乗り出していますので、車体産業も新しい時代に一步を踏み出す時期に来ているのかも知れませんね。

■石 部 ASEANは今、タイを中心に動き始めているのです



完成度の高いボトラカー・FVV



が、タイでは既に一部の車種で上物メーカーがイニシアティブを取って市場構築が進んでいます。佐川急便も既に海外に向けてハンドルを切っていますので、我々グループも追随することになりますが、これからは日本の常識が海外でも通用するとは限りませんので、車体製作についてもグローバルな視点に立つことになります。

□秋林路 私も日本の車体メーカーが海外でも躍進することを願っていますので、今日のお話しには夢と希望が湧いてきます。新しい開発部門はどんな組織になるのでしょうか。

■石部 全てこれからですが、我々装置産業は人の成長が企業の成長そのものです。ですからまずは人が成長する企業環境を整えることが先決で、方向性をしっかりと定めて、人を育成し技術を磨いていく。我々がやるべきことはこれに尽きるように思います。将来という意味では「イトーヨーカドーに対するセブンイレブンさんのように社会に大きく貢献する例もある。」と大風呂敷を広げているのですが、世代が移っても変わらない原理原則はしっかり構築しておきたいと考えています。

■女性本位で自動車整備の現場を見直し

□秋林路 SG モーターズは自動車整備も大きな事業としてありますね。

■石部 はい、佐川急便が保有する約2万台の内の1万台はSG モーターズが直接担当しますが、残り1万台は外部委託しています。

□秋林路 トラック運送業界は最近ドライバー不足が問題になっていますが、自動車整備もメカニックが集まらないと聞きました。

■石部 少子高齢化の時代ですから、事情は同じです。外部に委託している1万台につきましても、後継者が見つからないとか、メカニックが足りないとか、いろいろ問題が出始めています。全体をしっかりと見直さなければならぬ時期に来ています。女性に適した仕事もありますので、昨年は一年間かけて工程の見直しを行いました。

□秋林路 女性ならではの感性もありますので、違う視点で見ると意外に女性が活躍できる現場も

多いかも知れませんね。

■石部 そうなんです。我々も「わくわくウイメンズプロジェクト」という女性従業員を軸にした活動をクローズアップして、活性化を図る取り組みを行っています。これは、佐川急便集配車の冷蔵冷凍庫製作の工程を女性だけで行っているのですが、家庭の事情など女性ならではの問題もありましたが、ローテーションを上手に組んで問題なく熟しています。やはり精度を求められる工程は技術を身につければ女性に向いているように思います。

□秋林路 整備も女性の現場があるのですか。

■石部 はい。メカニックはこれまで男性中心でしたが、現場の仕事を請求に置き換える清算業務は女性に変えています。女性は仕事内容を細かくチェックするので請求漏れがなくなる成果も

出ています。業務内容を細かく見ていくと女性に適した仕事も沢山あります。

□秋林路 女性を受け入れる為には現場環境を変える必要も出て来るのではないですか。

■石部 その点は少し違った見方をしています、現場も女性本位の仕事づくりがあるのではないかと考えています。例えば2トン車を前にした時に、男性なら機械なしでタイヤを脱着できるけれども女性ではキツイ。では、大型車はどうか。大型のタイヤは男性でもキツイので機械化している。それなら2トン車も機械化すれば女性も扱えるようになる。このように、女性本位で現場を見直せば、整備で女性が活躍できる現場は沢山あると思います。

□秋林路 なるほど、これまで男性を前提の工程だと気づきにくいところですね。

■石部 そうなんです。習慣になっている事が必ずしも正しいとは限らないという事です。

□秋林路 整備に使用する工具とか機器類も時代と共に進化しますので、新しい道具を入れる事で、女性が活躍できる現場も増えるかも知れませんね。

■石部 実は自動車整備に関する資格も、これまでは男性中心になっているのですが、国も女性進出を支援する施策を打ち出して欲しいですね。

□秋林路 以前、女性だけの整備工場を企画しておられましたが、その後の展開はどのようになっているのですか。

■石部 “レディースショップ”ですね。乗用車も女性ドライバーの多い時代ですので、女性が気楽に入れるお店として企画しました。準備から3年が経ち、いくつか課題が見えてきたので、現在

は1つ1つ対策を検討しているところです。

□秋林路 考え方として面白い企画だと思いましたが、現実的には難しい問題もあるんですね。

■石部 女性だけの事業として長く継続するためには、従業員が結婚、妊娠、出産、子育ての時期が訪れても、その人に代わる人材の手当ても必要です。それでも利益が出せる仕組みづくりを確立しないと本格スタートは切れないのですが、企業に課せられた課題でもあると受け止めています。

□秋林路 これは企業の問題と同時に国の問題でもありますね。北欧の一部では、どんな状況でも子供や女性、高齢者の人権を国が守るけれども、税金はビックリするほど高い。善し悪しは別にして、そういう福祉社会であれば、企業も取り組みやすいと思います。

■石部 ASEANをはじめ、これから日本は海外で戦う事になりますから、人材は女性労働力も含めてとても大事なテーマです。

■野球で培ったド根性と心を癒す溪流釣り

□秋林路 そうですね、我々世代は女性は家庭を守り、男は外で稼いで家を守るという習慣が染みついているので、難しいのですが、若い世代は子育ても一緒にやっているようですから、この先社会における男女の役割も少し変



女性が活躍する整備部門



作業も丁寧な女性従業員(製造部門)



SG モーターズの整備工場

わってくるかも知れません。

ところで、少し個人的なことも伺いますが、体格がしっかりして重量感がありますが、何かスポーツをしておられるのですか。

■石 部 中学、高校、大学を経て、いすゞ自動車に入社してからも4年間は社会人野球に出ていました。

□秋林路 確かにいすゞ自動車も野球が強い時代がありました。この体格からするとポジションはキャッチャーですか。

■石 部 いえ、ピッチャーです。今はこの体格ですが、当時はスリム体形でした(笑)。年代的には江川卓さんと同世代です。

□秋林路 そうですか。1978年にドラフト会議前日にジャイアンツとの電撃的な入団契約を結んで話題になりました。野球全盛の良い時代ですね。私は剣道でしたが、若い時分にスポーツに打ち込んだ人は、生活のリズムがスポーツ中

心ですから、社会人になっても一本気な人が多いように見受けます。

■石 部 そうなんです。脳が筋肉になっているので、苦勞しています。(笑)

□秋林路 それはご謙遜です。ご趣味はいかがですか。

■石 部 私は溪流釣りです。生家が新潟と福島の県境あたりですので、若い時分は溪流で餌をつけて釣っていましたが、後に

毛バリになって今は日本古来のテンカラ釣りです。

□秋林路 それは随分凝っておられますね。

■石 部 ある時期から釣り仲間が出来まして、皆さんがテンカラをやっていたので私も転向しました。源流志向で時々1泊2日に出掛けます。

□秋林路 源流の沢を釣り登るのは気持ち良いそうですね。

■石 部 景色も素晴らしいし、気分爽快です。ただ、雨に遭遇すると釣りになりませんから天気予報は要チェックです。

□秋林路 趣味があると仕事とは別の人間関係も出来ますし、気持ち的にもゆとりが出るように思います。この先、日本のトラック産業も大きく変わる予感がありますし、SG モーターズさんの役割も大きくなるように思います。どうか健康に留意なさってご活躍頂きたいと思います。本日は有難う御座いました。



対談する本誌・秋林路(左)



1台1台が、私たちの作品です。

広々とした最新設備が整った工場内では、お客様の様々な要望を100%クリアするため、半世紀以上にも及ぶ手作り尊重の社風が脈々と受け継がれています。設計の段階からオリジナリティのある製品は1台1台が異なる性質を持つため、各部門にスペシャリストを配し、熟練した技術と柔軟な対応力でお応えしています。